

平成 22 年度 事務事業事後評価調書 (平成 21 年度事業)

整理番号 13 - 3

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		救急業務体制整備事業					
評価者	担当課名	消防		担当係名	警防係		
	管理職	職名	支署長(課長)	作成者	職名	係長	
			豊田通敏	氏名	佐藤和幸		
事業の概要	現在の救急活動において、救急救命士による高度な救命処置は必要不可欠である。 このため雄武町における全ての救急活動において、救急救命士の人数が不足しているのが現状であり、救命士による高度な救命処置を重度疾病傷病者に対して実施するため、救急救命士資格者の新規採用を促進するとともに、現在活動中の救急救命士が生涯研修(2年間で128時間以上)及び各研修において手技の向上を図る。					全体計画 (平成 20 年度 ~ 24 年度)	
						国・道支出金	千円
						地方債	千円
						その他	千円
						一般財源	11,761 千円
事業費計	11,761 千円						
実施方法	直営	民間委託	その他 ()				
第 5 期 総合計画 (前期)		登録事業	非登録事業	優先度	B		
事業の位置付け	政策目標	4	うるおい・雄武 ~ 生活環境・生活基盤の充実 ~				
	基本施策	19	消防・救急・防災体制の強化				
	単 位 施 策	3	消防・救急体制の充実				
	事務事業の種類		自治事務	法定受託事務			
	その他計画・根拠等	消防法、消防力の基準、救急業務実施基準					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(見込)	23年度(計画)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円	
	雄武町負担額 (一般財源)	126 千円	355 千円	9,560 千円	820 千円	780 千円	
	合 計	126 千円	355 千円	9,560 千円	820 千円	780 千円	

593

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	職員(救急救命士)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	救急活動の充実	救急救命士の研修及び採用の実施			
		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値		
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	救急現場に救急救命士が出動し、重度疾病傷病者に高度な救命処置実施する。	救急救命士薬剤投与研修等	目標年度	平成24年度	
			目標値	12 回	
			実績値	5 回	
			達成度	41.7 %	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	研修をすることにより救急救命士が高度救命資機材を使用できるようになり、重度疾病傷病者の救命率の向上、予後に抱える後遺症の軽減。	救急救命士新規採用数	目標年度	平成24年度	
			目標値	2 人	
			実績値	0 人	
			達成度	0 %	
内 容(どのような手段で何を行ったか)					
消防学校研修	消防学校に依頼し、薬剤投与研修を実施				
札幌医大研修	医師の指導のもと研修を実施				
	町立保健センター、新開庁舎に研修、養成学校(北海道リハビリテーション専門学校)				

3 事務事業の評価(Check)

(1) 事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか、当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要 / 概ね必要 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	現有救急救命士の生涯研修及び実習は義務付けとなっている。また不足している救急救命士については、町広報誌、新聞、町ホームページ、救急救命士養成専門学校などに広く応募を行っている。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2) 事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

課題あり 有効 / 概ね有効 / 課題あり	設定した目標値の達成状況	現有救急救命士の生涯研修及び実習については達成できたが、新規救急救命士は応募がなかった。
	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3) 事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的 効率的 / 概ね効率的 / 課題あり	判断の理由	現有救急救命士の生涯研修及び研修を受けたことにより、町民に対し高度な救急処置を実施できる資格を取得した。新規採用者が無く効率的な人員配置ができなかった。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4) 事務事業の公平性

公平 公平 / 概ね公平 / 公平でない	判断の理由	救急救命士資格者が増員となれば、重度疾病傷病者に対し高度な救急処置が実施できる。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
C	C	
救急救命士資格者採用にあっては募集しているが、現在のところ採用者が無く、今後も募集及び救急救命士養成専門学校に依頼していく。救急救命士の研修については、手技の向上が認められるため今後も必要であると考え。	同左	



継続 / 現状維持	継続 / 現状維持	
継続してこの状態を維持していかなければならないが、新規採用者にあっては、広く求人をしなければならないと考える。町民にとって高度な救急活動を行うことによって、安心できる町づくりを目指すには、継続事業であることが適当である。	同左	

* 展開方向の区分

継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)